

GSway

ともに歩み、ともに進む

2
Dec. 2017

02 | 特集

施設管理に補助金を活かす



06 | Product & Service

07 | 技術・品質マイスターへの道②

08 | NEWS&TOPICS

12 | 日本史の中のスーパーフード

戦略FMパートナー
 **GLOBESHIP**



施設管理に補助金を活かす

長期的なFMの視点と「省エネルギー補助金」の活用

お客様の大切な資産を戦略的ファシリティマネジメント (FM) の面からお守りすることはグローブシップの使命です。ビル・建物等の施設を快適かつ安全に利用するためには、長期的な視野でのメンテナンス計画が不可欠ですが、コスト面での検討が重要課題となります。そこで、今からでも申請が可能な国の補助金制度に注目し、その概要と当社のサポートを含めた導入事例をご紹介します。

営業企画部
環境FM室長
佐藤 幸夫



省エネ推進の流れと国の補助金制度

私ども環境FM室は、さまざまな新しいニーズに対して具体的なメリットとしてお客様に還元できるよう、ソリューションを模索する役割を担っています。そんななかでも補助金制度の活用は、費用面でのメリットも大きいため有効な対策と捉えています。

例えば、2011年3月の東日本大震災の後、我が国では電力需給が著しく不安定な状況となったことを背景に、国や地方自治体においても、省エネルギーが重点項目として掲げられ、これらに関しての補助金制度が強化されました。同時に、あらゆる業界で省エネ対策への意識が一気に高まりました。

省エネに関しての補助金制度は所管によって予算規模の違いはありますが、国や地方自治体で整備されています。そのうち、国につ

いては、国土交通省と経済産業省の2つの官庁が、それぞれ補助金制度を用意しています(表1参照)。国交省が行う「既存建築物省エネ化推進事業」は、建物の外壁を含む改修工事が条件として挙げられるため、申請要件を満たすにはやや大がかりです。費用面でもかさむため、経産省の「省エネルギー投資促進に向けた支援補助金(以下、省エネ補助金)」のほうが申請しやすいと判断できます。

経産省の省エネ補助金制度の目的は、「工場・事業場、住宅、ビルにおける省エネ関連投資の促進によってエネルギー消費効率の改善を促し、国挙げて徹底した省エネを推進すること」です。対象は国内で事業を営む法人及び個人事業主と幅広い設定で、2017年度ベースでは新規事業分に234億円の予算が確保されています。

省エネ補助金制度の補助率は、

補助対象経費の3分の1。上限金額が地方自治体の同様の制度と比べて高いことから、利用価値があるといえます。

申請スタイルは「工場・事業場単位」もしくは「設備単位」の2通りで、省エネ効果の高い設備の入替かどうかで採択基準となり、支援が行われます。「設備単位」での補助対象には、表2のような事業が挙げられます。

工事施工とセットでワンストップサービス

この省エネ補助金については、当社でも「省エネ補助金活用ソリューション」と称して、営業部、工事部、営業企画部(環境FM室)が三位一体となりサポートを実施しています(図参照)。

現状では、申請書の作成については、弊社の管理物件であれば無償サポートをしています。具体的

表1：省エネルギー関連の補助金の種類

所管	経済産業省(資源エネルギー庁)	国土交通省(既存建築物省エネ化推進事業評価事務局)
名 称	省エネルギー投資促進に向けた支援補助金	既存建築物省エネ化推進事業
予 算(2017年度)	234億円	103.5億円
対象事業者	中小企業、中小企業以外の法人は省エネ法の中長期計画書に記載された事業主	省エネ化推進事業を行う建築主
補助率	補助対象経費の1/3	補助対象経費の3分の1
公募時期	4月下旬から6月上旬(年度によって変更有り)	5月・9月・1月(年度内で3回程度)
事業内容	I 工場・事業場単位での省エネルギー設備導入事業 II 設備単位での省エネルギー設備導入事業	建築設備の省エネルギー改修、パリアフリー改修
補助対象経費	設計費、設備費、工事費	設備費のみ

図：補助金申請のロードマップ



表2：補助対象となる設備更新事業

以下の既設設備を一定以上の省エネ性の高い設備に更新する事業

- ①高効率照明
- ②高効率空調
- ③産業ヒートポンプ
- ④業務用給湯器
- ⑤高性能ボイラ
- ⑥高効率コージェネレーション
- ⑦低炭素工業炉
- ⑧変圧器
- ⑨冷凍冷蔵庫
- ⑩産業用モーター

には専門的な数値や省エネルギー計算書が必要となりますので、当社が代行して機器メーカー等から必要な情報を取り寄せて書類に落とし込んでいきます。例えば、照明器具であれば、一つずつ取り外して消費電力を調べて図面に落とし込む等の作業を行います。

省エネ対応を念頭においた適切な設備の更新は、テナント貸としても不動産価値が高くなります。最近では、運用段階のエネルギー利用量を限りなくゼロに近づけたビル(ゼロ・エネルギー・ビル＝ZEB)に入居したい、という声も高まってきているため、訴求効果のアップにも期待が寄せられます。

補助金を採択された後報告書作成のサポートも

問い合わせが多いのは、建物の延床面積1,000㎡から1万㎡を管理されている事業者様で、空調設備と照明器具等の更新・改修です。築年数なら15年、既存機器の耐用年数、減価償却年数などを目途に補助金申請を検討されるようです。省エネ補助金制度は、必ずしも採択が確約されたものではありません。しかし、減価償却期間を終えていれば、エネルギー効率がより改善された新製品への更新が可能となるため、より省エネ効果の高い内容となるよう、申請には万全を期します。

一方、申請内容が採択されて省

エネ補助金の給付を受けると、その後の5年間は報告書を提出する義務があります。「年間エネルギー収支」を計算、提出することで申請要件を満たしているか証明しなければなりません。

なお、更新した設備については法定耐用年数が基礎となり売却や処分ができないことにも注意が必要です。

事業者様の中には、省エネ補助金制度についてはご存じでも、申請後の報告書提出をわずらわしいとお考えになり、申請自体を見送られるケースもあるようです。私どもでは、そうした報告書作成についても必要期間サポートをいたします。



Case Study 櫻正宗株式会社様

複合施設の空調設備に 省エネ補助金制度を活用

補助金活用施設：櫻正宗記念館「櫻宴」(建物面積 3,000m²)



櫻正宗記念館「櫻宴」



上：館内のショップ、下：レストラン「酒蔵ダイニング」

創釀400年地域と共に灘の酒を守り抜く

日本酒の産地として有名な兵庫県神戸市。良質な酒米やミネラル分の豊富な水など酒造りに適した風土に恵まれ、多くの酒造メーカーがある。なかでも灘五郷と呼ばれる東灘区をはじめとするエリアには、今も造り酒屋が軒を連ねている。

櫻正宗株式会社は、そんな灘の銘酒を創釀以来約400年にわたって造り続けてきた老舗企業。清酒「櫻正宗」は全国で親しまれ、酒銘として広く使用される「正宗」は同社が元祖といわれている。

Corporate Profile

櫻正宗株式会社
代表者：11代目当主 山邑太左衛門
住 所：兵庫県神戸市東灘区魚崎南町4-3-18
創 釀：1625年(寛永2年)
<http://www.sakuramasamune.co.jp/sakuraen/sakuraen>

櫻正宗では、酒造りの本拠地である灘五郷の中心「魚崎郷」に、これまで培ってきた酒造りの技術や歴史の継承と、地元の地域活性化のため、櫻正宗記念館「櫻宴」を1998年に開設させました。

この施設は、1995年の阪神大震災で甚大な被害を受けた同社にとって、震災を乗り越えたという意味合いを持つ象徴的な建物です。館内はショップ、展示コーナー、レストランからなる複合施設で、灘の酒の魅力が多面的に体験でき、多くの来場者が楽しめる施設となっています。

グローブシップでは2012年5月に、その「櫻宴」で使用されていた空調設備を対象に省エネ補助金の申請を提案しました。

櫻正宗とグローブシップの出会い、同社の東日本橋(東京都中央区)にあるテナントビルにて清掃業務を受託した2003年にまでさかのぼります。2011年からは南大井のテナントビル、そして、その間にも同社東京エリアの施設で清掃サービスを提供。補助金申請に関しては、グローブシップを通じて都内で既に2件の実績があったことから、実績が評価され提案につながりました。

提案内容は、減価償却期間を終えていた既設室外機15台を撤去

し、省エネ効率の高い新機種7台に集約しての更新。併せて、室内機41台についても全て更新するというものでした。

補助金申請書は13年8月に提出。同年10月には採択され、結果を受けて工事を施工、翌14年1月末には完了しました。

申請書の作成には、まず大阪支店が現場の詳細情報の収集を行い、その情報を基に実際の書類作成を本社環境FM室が担当しました。

櫻正宗の担当者様からは「提出書類が多いことと、内容が煩雑なことを考えると、当社だけの申請はやはり難しかっただろうと感じました」との声がありました。

また、工期については、「櫻宴」

がお客様を迎える複合施設であること、隣地が本社工場であるため、長期の工事は避ける必要がありました。

「グローブシップさんから提案いただいた工期は、できる限り年末年始の休業時に集中して実施し、営業に支障をきたさないよう配慮してもらえたところが助かりました」(同担当者様)。

工期を終え、設備更新後は更新前と比べて電力使用量を約4割削減することができました。補助金の給付後も、「年間エネルギー収支」について報告書の作成を行うなど、グローブシップによるサポートは継続されています。

Comments

最適な提案は、まずお客様を知るところから



営業企画部
環境FM室 課長代理
北田 祥文

補助金については、費用負担が少しでも軽くなるということで、設備面での改修工事を予定されているお客様はやはりそうした情報収集に敏感です。

私どもが大切にしたいことは「お客様が資産として今後どのように管理されたいのか」。ご要望を充分に伺ったうえで、国や自治体の行う補助金制度の中から

条件の適したものを探し出し、ご提案します。当然、まずは担当の営業部門と共に現地に何う所から始めますが、申請年度によって条件の更新や見直しもありますから、その内容によっては「今年の状態なら申請を見送ったほうが良いでしょう」とお伝えすることもあります。

予想通りの省エネ効率があがった時や、採択されたときの達成感はひとしおです。これからもお客様にとって最も良いご提案をするために、よりお客様を知ることが大切にしていくことをスタンスとして参ります。

付加価値の高いサービスを心がけたい



営業企画部
環境FM室 参事
彦田 淳一

私は当時、大阪支店とともに櫻正宗様の補助金申請を担当いたしました。ありがたかったのは、これまでの補助金申請の実績を評価いただいたうえでの依頼だったことです。

申請業務については、営業部からの指示を基にサポートに入り、必要に応じて進捗状況について報告を行うことになりました

が、具体的な現地調査や申請書類の作成や工事施工まで、ほぼお任せいただくことが可能です。また、特に難しいと感じる点は、対象となる施設が補助金の申請要件を満たしているかどうかを「先に」判断が必要などあります。

もちろん、お客様の数だけご要望がありますので、今後の課題としては、種々異なるサービスの現場で、対応力を強化していくことだと感じております。省エネへのニーズは今後も継続しますので、なお一層柔軟なサポートができるよう、現場に沿った対応を心がけて参ります。

長寿命・省メンテナンスを実現

Product 01

リチウム直流電源装置「EPSシリーズ」



お問い合わせは当社
営業企画部環境FM室 TEL: 03-6362-9769 まで

消防法による非常電源、建築基準法における予備電源、電気設備技術基準に定められた保安用電源として活用できる直流電源装置。ソニーの「EPSシリーズ」は、その直流電源装置の中でも、長寿命・省メンテナンスを実現できる製品です。ソニーのオリビン型リン酸鉄リチウムイオン電池を使用することで高い安全性を持ち、期待寿命は20年（従来の一般的な鉛電池の寿命は10年未満）。使用から10年後においても初期容量の90%以上の電池容量が期待でき、鉛電池寿命は定格容量の80%以下に対して「EPSシリーズ」は定格容量の65%以下と長寿命15年間電池交換が不要です。また、リチウムイオン電池出力がフラットで安定していることから負荷電圧補償装置（SID）を削減でき、鉛電池に比べて自己放電をほとんどしないため、省エネ化が実現できます。小型化・軽量化により、建築構造負荷や搬入施工コストも軽減でき、設置は省スペースで済むメリットもあります。非常照明用電源の更新などの際に検討の価値ある製品といえます。

有機物を衛生的に無害化

Product 02

ハイブリッド熱分解炭化物生産機「ハリーポットDX」



お問い合わせは当社
営業企画部環境FM室 TEL: 03-6362-9769 まで

「ハリーポットDX」（ミヤマテクノス製）は、熱分解による有機物を原材料とした、炭及びセラミックパウダーのリサイクル材料の生成を目的とするための装置。食品、生ゴミ、紙、布、木材、医療用廃棄物、使用済み紙おむつ等の他、水分を多く含んだ有機物も単体で処理ができます。

従来は炭化物生産機の稼働には石油や石炭、天然ガス等を使用してきましたが、「ハリーポットDX」では電力（200V）のみを利用。かつ自動運転で24時間365日連続運転でも1カ月2～3万円程で済む省エネ設計であるため、廃棄物処分のコスト削減が可能となります。さらに、悪臭・煙・ダイオキシンも特殊ヒーターユニットの働きで排出させず、稼働音も約60dbと抑えられていることから環境にも優しい仕様となっています。設置スペースは畳2畳弱。最大処理内容量は200L未満、処理時間は約6～12時間。

処分コストの高騰、処理量の飽和状態、完全処理の確認等、事業用廃棄物の処理について課題が山積する中、自己解決・軽量化にもつながる製品といえます。

★★★★★ 技術・品質マイスターへの道

File 02

汚れ落としは硬さが決め手

“モース硬度”から読み解く「研磨」

安全品質推進部
清掃品質課課長

鈴木 悟

2013年「ビルクリーニング科」（技能士コース）教科書を執筆。2016年厚生労働大臣感謝状（職業能力開発関係）受賞。現在、全国ビルメンテナンス協会専任講師・検定委員兼務。



これまで「モース硬度」という尺度を聞いたことがありますか？ 宝石など鉱物の硬度を示す相対的な基準です。10が最も硬く、1が最も柔らかい鉱物とされています。

例えば一番硬い鉱物は、かつて日本では金剛石と呼ばれていたダイヤモンド。成分は炭素（C）で、モース硬度は10です。反対に、柔らかい鉱物ならモース硬度1のチョークなどで使われる滑石があり、硬さを相対的に捉えることができます。ダイヤモンドに次ぐモース硬度9に値するものに、コランダムという酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）の結晶からなる鉱物があります。研磨剤の材料でもあり、建物の床面清掃用のパッドなどに使われていますが、実は宝石のルビーやサファイアと色が違うだけで、鉱物学的には同じ物質です。

また、錆び落としなどでよく使用する紙やすりには、カーボランダムと呼ばれている炭化ケイ素（SiC）が使われていて、コランダムと同じくモース硬度は9です。花崗岩（御影石）は硬いイメージがありますが、モース硬度は6。そのため、コランダムを使えば花崗岩といえども削られてしまいます。では、花崗岩やガラス（モース硬度5）に傷をつけず

に磨くには何をえばいいのでしょうか。そんな時は、大理石を粉状・粉末にした研磨剤を使います。この研磨剤は炭酸カルシウム（ $CaCO_3$ ）から成り、モース硬度は3と低めです。業界で「タンカル」という商品名で製品化されており、こびりついた汚れをかき落とすために使われています。コランダム系と違い、花崗岩やガラスよりも柔らかいため、これらの対象物に傷をつけることがないのです。

洗剤製品の成分表示も見てみましょう。一般的に「クレンザー」と呼ばれる研磨剤入り洗剤も、同様ではありません。「ケイ酸系」「酸化アルミニウム系（またはアルミナ系）」「セシウム系」と表示してある場合は、花崗岩やガラスの製品に使用すると傷がつくと考えていただいたほうが良いようです。

昨今では、100円ショップでもダイヤモンド入りの研磨具が買えるようになりました。これでガラス面が削れますが、理論的にはガラスの表面に細かな傷をたくさんつけることになります。ですが、心配は無用です。使用されているダイヤモンドの粒子が非常に小さいため、傷が目立つことはありません。研磨後は、汚れを削り取ったガラスの表面が親水性に戻り、水をかけると水滴にならず、水が広がるようになります。浴室の水垢で白くなった鏡にダイヤモンド入りの研磨具を試してみてもいいでしょうか。不思議なほど、すっきりと映るようになります。

しかし一方で、研磨剤に使われるダイヤモンドやコランダムの粒子が粗いと、結果的に研磨傷が大きくなりますので、磨かれた鏡やガラスはツヤがなくなります。研磨については、成分の硬さだけでなく粒子の大きさまでが、その仕上がりを左右しますので、磨きたい対象物に合わせて研磨剤・研磨具を選ぶようにしてください。

1 伝えたい、目指すべきサービスの在り方とFMの今後 「FMセミナー」開催

弊社の未来に向けた取り組みや、日頃からお届けしているサービスに込める思いをお客様にお伝えしたい。また、国内外におけるファシリティマネジメントの現状について理解を深めていただきたい、という思いから、「FMセミナー」を7月24日に本社にて開催いたしました。

社長の矢口からは、ご来場の方々への感謝とともに、「私どもの使命は規模の追求ではなく、お客様に最高の品質と技術をもってサービスを提供することです。お客様にとって欠かせないビジネスパートナーになることを願ってやみません」とお伝えしました。

第一部の講演には、日本オフィス学会会長で日本ファシリティマネジメント協会理事の松岡利昌様を招聘。「ファシリティマネジメント戦略的アウトソーシング～FMビジネスのこれから～」をテーマにお話しいた

だき、国内外FM市場の最新動向や、ロボット・AIを活用した最先端の施設管理について分かりやすくご説明いただきました。

第二部では、弊社と仏ソデクソ社との合併会社であるグローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス株式会社(GSS)でストラテジー&マーケティングディレクターを務めるマーク・ヒルより「IFM(総合施設管理)の特徴と利点」について、同時通訳を交えながら紹介をいたしました。

また、ブランド委員会の委員長を務める常務の神部からは「グローブシップのブランド戦略」と題し、今後当社が目指すべきサービスの在り方などをお伝えしました。

私どもは今後も機会を見つけ、皆さまにグローブシップの現状や目指す姿を発信させていただきます。



企業紹介エリアでは、アトックスが除染ロボットの一部を展示



セミナー後の懇親会では参加者の皆さまと歓談



講師の松岡利昌様



GSSのマーク・ヒル



常務取締役神部達郎

2 労働安全衛生標語最優秀作品を発表 「品質向上・安全衛生大会」を開催

弊社では毎年、作業の活性化を図る目的で、日々の業務の品質管理や安全性を高めることに貢献した支店・出張所を表彰しています。

7月21日には、本社ビルにて「2017年度グローブシップ品質向上・安全衛生大会」を開催しました。

初めに、社長の矢口が「品質向上と安全衛生は共に重要であり、この二つの向上こそが労働災害防止につながり、ひいては『戦略FMパートナー』としてお客様との一層強固な関係を築くことになる」と述べて大会が始まりました。

「労働安全衛生標語」の表彰式では、931点の応募作品の中から、10点の作品が選出され、サントリービール京都ビール工場/渡部康司の「続けよう 小さな改善 大きな安全」が最優秀賞を受賞。また、安全品質推進部の内藤達哉の作品が東京ビルメンテナンス

協会主催の労働安全衛生標語表彰で金賞に選出されました。

続いて安全品質推進部室長代理の石川より、労働災害の傾向と対策や労基署査察結果の発表と、全国の現場で行っている安全活動報告が行われました。

最後に「本日の内容を是非現場の安全活動に活かし、災害ゼロを達成してほしい」と専務の伊藤が閉会の辞を述べ、大会は終了しました。



3 「第19回不動産ソリューションフェア」に出展 お客さまに最適なソリューションをご紹介

2017年10月16、17日に東京ビッグサイトにおいて開催された「第19回不動産ソリューションフェア」(主催：ビル経営研究所)に出展いたしました。3回目の参加となった今回は、「戦略FMパートナー」「AI」「グローバル」をテーマにブースを構成。お客さまのニーズを伺うとともに、当社の総合施設管理(Integrated Facility Management / IFM)に関するソリューションを、パネルや映像でご紹介しました。

清掃、警備、設備管理といった、いわゆるビルメンテナンス業務のみならず、建物のライフサイクルコスト(LCC)や省エネ、業務合理化ソリューション(ノンコア業務のアウトソーシング)などのサービスラインをパネル等で説明。一方で映像では、当社の行動規範である「GS WAY」に基づいて日々の業務を実践する社員の様子と、サービス・品質の概要を放映することで、当社への理解を深めていただきました。

また、グループ会社のアトックスからは、自社で開発した福島第一原子力発電所の廃止等の作業で除染に使用する小型遠隔除染装置「RACCOON(ラクーン)」を展示。同装置は、第6回ロボット大賞の公共・特殊

環境ロボット部門で優秀賞を受賞しており、多数のお客さまからご注目いただきました。最近ではビル清掃等でもロボットの活用が検討されていることから、当社の技術開発の一端をお見せすることができたと自負しております。

あいにくフェアは両日とも天候には恵まれませんでした。盛況のうちに2日間の日程を終えることができ、ご来場いただいた皆さまには御礼申し上げます。



4 「quality of life conference」をソデクソ社が開催 人々がより幸せに生きるための方法を模索する

2017年10月16、17日にロンドンにおいて、当社が提携を組む総合施設管理 (IFM) の世界的大手であるソデクソ社 (本社・フランス) によって「quality of life conference」が開かれました。これは30以上の国々の企業、大学、NGO、病院、政府の関係者、地域社会リーダーなどが集い、クオリティ・オブ・ライフの未来を模索することを目的としたものです。初回は2015年にニューヨークで開催され、今回が2度目となります。当社からも代表取締役社長の矢口が招待され、出席いたしました。

会議では、経営者や社員、学者、市民、患者をはじめとしたさまざまな立場の人たちが、それぞれの思いや考え方をスピーチ。人々が質の高い生活を送るためには、どのような方法があるのかを模索しました。

昨今は人工知能等の新技術の登場により、人類がこれまで経験してきた中でも最大の転換期にある。そのことが不確実性と複雑さをもたらす可能性はあるものの、この技術革新により現代社会に存在する多くの課題の解決が期待できるのではないかと——そんな主旨の発言をするスピーカーもあり、これからの社会の展

開に期待が持てる会議となりました。

その他、実際に生活の質を上げる取り組みをしている企業の実例も紹介。当社としても非常に実りのある会議でした。



(左から) 2018年1月からソデクソ社CEOに就任するドゥニ・マシュエル氏、当社代表取締役社長の矢口、ソデクソ社アジア太平洋地域代表のジョン・ポール・ディーミック氏

5 「GS WAY」の全社員への啓蒙活動について 「高いサービス品質、持続的なサービス品質」提供のために

グローブシップでは2017年4月に、全社員が業務を遂行していくうえで遵守すべき「グローブシップウェイ (GS WAY)」を策定。その解説・事例集を冊子として配布し、全社一丸での取り組みを始めております。その浸透のために、各部署のメンバーで構成された「GS WAY専門委員会」を設置し、そのもとで各部、支店、出張所単位でGS WAYを実行・推進しています。また、現場のチームや支店、本社各部署といった集団単位としても、GS WAYの実行に取り組

んでおり、グループ各社を含め全社に定着を図っています。引き続き、皆さまにはご指導・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

行動規範 1 お客様に 対する 姿勢	誠実を重んじ品格ある行動	GS WAY 01	グローブシップの誇り
		GS WAY 02	当事者意識
	プロフェッショナルな サービスの提供	GS WAY 03	顧客本位の提案
		GS WAY 04	約束遵守
		GS WAY 05	サービス品質
	品質・安全の追求と信頼構築	GS WAY 06	安全
		GS WAY 07	協力パートナー
行動規範 2 社会に 対する 責任	法令等の遵守と高い倫理観	GS WAY 08	ルール遵守
		GS WAY 09	情報管理
	環境にやさしい行動	GS WAY 10	環境配慮
	社会への貢献	GS WAY 11	快適空間の創造
行動規範 3 職場に おける 心構え	創意工夫で挑戦し革新を起こす 職場と自己実現	GS WAY 12	チャレンジと自己実現
	人格の尊重とチームワークの発揮	GS WAY 13	仲間との協働
		GS WAY 14	良好なコミュニケーション
	信頼と思いやりのある	GS WAY 15	多様性の尊重
	働きやすい職場	GS WAY 16	NO ハラスメント

6 常に環境・社会への配慮を心がける 弊社本社ビルが「4つ星」評価を受ける

日本政策投資銀行より、弊社の本社ビル・芝フロントビル (所在地 〒108-0014 東京都港区芝4-11-3) に対して2016年度版の「DBJ Green Building 認証」が付与され、「4つ星」との評価をいただきました。これは「環境・社会への配慮がなされた不動産」を認証するもので、これまで評価されなかった環境・社会的側面という角度から不動産価値を捉えたものです。認証では、以下のような評価項目を設定されています。

- 「Ecology」
- 「Community&Partnership」
- 「Amenity/Diversity&Risk management」

4つ星は5段階評価の上から2つ目の評価で、極めて優れた「環境・社会への配慮」がなされたビルであると本社ビルが評価されました。

7 グループ2社の社名を変更 シナジー効果とブランド浸透を目指して

グループのシナジー効果とブランドの浸透を図るため、去る10月1日にグループ2社の社名を「グローブシップ」を冠する社名に変更いたしました。

グローブシップ総合管理株式会社は遠隔監視システムを活用したビルの集中管理を得意とし、主に中規模ビルを中心に最少の人員で安全、安心の確保に努めています。グローブシップクリーンサービス株式会社は清掃業務を主体とした機能会社であり、40年にわたってさまざまな清掃サービスをお客様にご提供し、高い評価を頂戴しております。

今後、より一層グローブシップのサービスをお客様に提供し満足していただくために邁進していきます。

旧社名	新社名
日本ビル総合管理株式会社	グローブシップ総合管理株式会社
日本ビルクリーニング株式会社	グローブシップクリーンサービス株式会社

編集後記——12月1～3日まで社長の矢口と4名の役員で韓国のソウルや慶州に行ってきました。初日は、9年前から交流があるASTA IBS社の本社 (ソウル) を表敬訪問し、大歓迎を受けました。また韓国での業界動向や今後の戦略など、さまざまな意見交換が活発にでき友好を深めることができました。昨年3月には同社のイム社長らが来日して当社を訪問され、「是非韓国に来てほしい」との招請があり、今回韓国訪問が実現できました。こうした民間レベルでの日韓友好関係の絆を強固にし、今後もより一層交流を進めていきたいと思っています。

8 毎年恒例の日韓交流会 韓国ビルメンテナンス会社の視察団が来訪

10月20日、韓国のビルメンテナンス会社の株式会社ASTA IBS (売上高78億円、社員数2,500人、本社ソウル) から選ばれた優秀社員40名様が日本研修視察団としてグローブシップ本社を訪問していただきました。

日韓の民間交流の一環として行われる本研修の視察団も今回で9回目。前回は弊社本社ビルの見学や映像資料を使った清掃実技のレクチャー、東京スカイツリーの冷地施設などを視察いただきました。

前年と同様に、弊社の担当者より本社屋の紹介や会社概要の説明を行いました。さらに今年は、業務のスペシャリストを育成する、柏研修センターにも来訪していただきました。柏研修センターは、電気・空調・吸排気といった施設設備に関する実務研修を行っており、ビル施設管理の各種専門教育や総合管理責任者の育成など、幅広い教育を行うことができる施設です。

視察団の方々には、清掃と設備・警備の2班に分かれていただき、実際に実務研修の見学と実践を体験。実機を用いた研修を行うことで、日本のビルメンテナンスサービスの仕事に触れていただきました。

その後、アトックス株式会社の研究棟に移り、除染ロボットやドローンを見学。消火栓操作、放水訓練にも参加され、1日の予定が終了しました。視察を終え、「今回の経験を活かして質の高いサービスを提供していきたい」と話される方も見受けられました。



GS way 2号
2017年12月20日発行
発行：グローブシップ株式会社 総務部
東京都港区芝4-11-3 芝フロントビル
TEL.03-6362-9701
※本誌記事・写真の無断転載・転用・複写複製 (コピー) を禁じます。

「人生100年」時代、**アクティブ・ハンドレッド**を目指そう！

其の二

卑弥呼も食した!? 古代刺身と野菜汁

永山久夫 食文化史研究家



◆90年以上長生きした女王

無数に残された縄文貝塚を見ても分かるように、日本人は魚介類が大好きだ。魚には、長寿効果の高いDHA(ドコサヘキサエン酸)やEPA(エイコサペンタエン酸)が豊富である。DHAは脳の老化を防いで、記憶力の向上に欠かせないし、EPAは血液のサラサラ効果が高いから、動脈硬化や心臓病などの予防に役立つ。

縄文時代の次の弥生時代になると、稲作が普及し、米で経済力をつけた国々が各地に出現する。それらの国の中でトップクラスの実力を持っていたのが、女王卑弥呼が統治する邪馬台である、と中国の史書である『魏志倭人伝』は述べている。

彼女は巫女でもあり、国力や農事、人々の幸せなどを占う立場にあったが、かなりの老婆だったらしい。女王ばかりではなく、邪馬台国の人たちは驚くほどの長寿だと、当時の中国人も驚いている。

「人々長寿で、あるいは百年、あるいは八、九十年生きる」と同書にあるのだ。卑弥呼が死亡したのは三世紀の半ば。女王に就いたのは娘の頃で、逆算すると90年以上は生存していたことが分かる。

今から1800年前の古代人が、どうしてそれほど長生きできたのか。

◆百余歳に至るものはなはだ多し

卑弥呼をはじめ、邪馬台国人長命のキーは食生活にある。『魏志倭人伝』に「倭国(古代日本)は温暖で、冬も夏も生菜を食う」とあるのだ。

「生菜」は、文字通り生のままで食べるお菜で、魚や貝の生食、つまり刺身とみてよい。倭人は、海中に潜って魚貝をとるとあり、相当に魚が好きだった。縄文人以来の伝統である。

魚にはタンパク質やビタミン、ミネラルなどに加えて、先ほど述べたように不老長寿に欠かせない脂肪酸が豊富だ。生食することによって、加熱では失われがちな脂質がそっくりとれるから、いっそう長寿効果が高い。

加えて、ポリフェノールなどの抗酸化成分カロテ

ンなどのビタミン類、それに食物繊維たっぷりの野菜汁をとっているのだ。

『魏志倭人伝』の後に同じ中国で書かれた『後漢書倭伝』の中に、倭人長寿を伝えたくだりが「(倭人の)多くは長寿で、百余歳に至るものはなはだ多し」とあり、さらに「冬夏に菜茹を生ず」ともあるのだ。この場合の「菜」は、畑に生え

るという意味だから野菜のこと。「茹」は煮るだから野菜汁となる。野菜は「野」の「菜(副食物)」であり、先程の生菜は「生」で食べる「菜」である。

卑弥呼たちは脂ののった魚を日常的にとり、季節ごとの野菜や山菜を汁物にして食文化を形成していた。そして、古代の中国人もびっくりするほどの長寿国を出現させていたのである。



永山久夫 食文化史研究家 1932年生まれ。古代から明治時代までの食事復元研究の第一人者。長寿食や健脳食の研究者でもあり、長寿村の食生活を長年にわたり調査している。『「和の食」全史』ほか著書多数。